

令和元年度 指定管理運営についての評価

1 管理運営の状況

1	施設名	仙台市若林図書館	仙台市広瀬図書館	仙台市榴岡図書館
2	指定管理者	株式会社 ヴィアックス	丸善雄松堂 株式会社	丸善雄松堂 株式会社
3	指定期間	平成30年4月1日 ~ 令和5年3月31日	平成28年4月1日 ~ 令和3年3月31日	平成29年4月1日 ~ 令和4年3月31日

2 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野			所見	所見	所見
I	総則	1.施設の目的や基本方針の確立	○図書館の設置目的を踏まえて策定された施設運営上の基本方針に基づき管理運営されており、全館共通の業務や行事を適切に行っている。 ○サービスの質の向上や利用促進のための取り組みがなされている。	○図書館の設置目的を踏まえて策定された施設運営上の基本方針に基づき管理運営されており、全館共通の業務や行事を適切に行っている。 ○サービスの質の向上や利用促進のための取り組みがなされている。	○図書館の設置目的を踏まえて策定された施設運営上の基本方針に基づき管理運営されており、全館共通の業務や行事を適切に行っている。 ○サービスの質の向上や利用促進のための取り組みがなされている。
		2.施設目的の達成度			
II	施設の運営管理体制	1.職員の勤務実績、配置状況			
		2.開館の実績			
		3.指定管理料の執行状況			
		4.個人情報の保護			
		4-2.情報セキュリティ対策			
		5.事故防止対策への取組			
		6.事故発生時の対応体制の構築			
III	施設・設備の維持管理	1.建物・設備の保守点検			
		2.備品の管理			
		3.清掃業務			
		4.警備業務			
		5.環境への配慮			
		6.外構施設の保守点検・清掃業務			
		7.植栽・樹木等の維持管理			
IV	サービスの質の向上	1.職員のマナー			
		2.利用しやすい受付案内の実施			
		3.適切な利用情報の提供			
		4.広報等による利用促進の取組み			
		5.サービス水準の確保			
		6.職員の教育・研修			
		7.利用者の意見・苦情を抽出する仕組みと対応状況			
		8.利用者アンケートや利用会議等の実施			
V	施設固有の基準	1.カウンター業務			
		2.蔵書管理業務			
		3.自主事業の適切な実施			

《施設設置者（仙台市）による評価》		《施設設置者（仙台市）による評価》		《施設設置者（仙台市）による評価》	
令和元年度は、地域イベント「新寺こみち市」における「ヤギさんおはなしかい」の継続、のびすく若林でのおはなし会実施など、地域に出向いて事業を行うとともに、館独自として新たにボランティア養成講座を実施し、ボランティアの活動機会の拡大を図るなど、市民協働で子ども読書活動推進事業に取り組んだ。 また、震災関連事業として、東北学院大学と連携し、被災した新浜の歴史をテーマにした事業を実施するなど、震災の記憶の継承や震災文庫の利用促進を図った。 ○分担収集分野である農業関連資料のPRにも努めている。	◎	令和元年度は、宮城総合支所とのタイアップにより、悩みを抱える市民に寄り添う資料の展示や、妊娠期の親や乳幼児の親への読書支援を新たに行うなど、本市が目指す「地域・市民に役立ち、共に成長を続ける図書館」の実現に向けた取り組みを行った。 中学生（ヤングアダルト世代）を対象に選書アドバイザーを募集し、中学生による自薦・他薦の読みたい本の選書活動やブックリストづくりなどの活動支援を引き続き行った。さらに、令和元年度は、中学生向けに本の紹介や本に関する会話を楽しむ読書会を初めて開催するなど支援の拡充を行った。また、「えいごdeおはなし会」を開催するなど、国際化社会における英会話教育のニーズを踏まえた特色あるイベントを開催した。 また、関係機関や地域との連携事業についてもより一層の充実を図り、多くの参加を得ている。仙台高等専門学校広瀬キャンパスとも様々な形で連携を深めており、特に夏休みプログラミング工作会は、小学校の授業で新たにプログラミング授業が導入されたことにより市民の関心が高く、参加者からも高評価が得られた。	◎	図書館事業では、「みやぎの・まつり」や「エキヒガン七夕交流会」等地域のイベントに積極的に参加し地域団体やボランティアとの連携を深めたほか、ママ・ココ・フェスティバルでは手遊びや大型絵本の読み聞かせを行うなど、幅広い層に図書館のPRを行った。 また、読書離れが著しい中学生（ヤングアダルト世代）への読書推進を目的に、中学生の選書サポーターを募集し、中学生サポーターによる図書館の選書・書架の装飾・ブックリスト作成への支援活動を行った。また、仙台青葉学院短期大学や聖和学園短期大学、尚絅学院大学等の複数の大学と、講師派遣や職場体験受入などで連携を図り、図書館を担う専門職育成に貢献していることは高く評価できる。 図書館内においては、文庫本等の意識的な配架による蔵書数増加の取り組みや館内の配置の工夫、SDGsをテーマにした展示の実施など、限られたスペースを最大限に生かして魅力的で快適な図書館づくりに努めた。 今後も引き続き、民間のノウハウを活かした事業実施による図書館利用促進への取り組みを期待する。	◎
総合評価	S	総合評価	S	総合評価	S

【総合評価】  
SS：特に優れている  
S：優れている  
A：良い  
B：普通  
C：可  
D：不遇

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市若林図書館
2	指定管理者	株式会社 ヴィアックス
3	指定期間	平成30年4月1日 ～ 令和5年3月31日
4	施設の利用状況	《利用者数》 令和元年度：181,597人団体〔個人：181,302人，団体・文庫：295団体〕（前年度比 108.3%） 平成30年度：167,742人団体〔個人：167,357人，団体・文庫：385団体〕 平成29年度：165,505人団体〔個人：165,102人，団体・文庫：403団体〕
		《事業》 仙台市若林図書館の運営管理
5	収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 97,045千円 (95,220千円) ( )は前年度決算額 ・ その他市が負担した費用 16,415千円 (17,575千円)
		《収入》 ・ 使用料収入 0千円 ( 0千円) ・ その他収入 39千円 ( 27千円)
6	利用者の声	《実施状況》 ・ 利用者アンケート 実施期間：令和元年12月8日（日）～21日（土） ・ 利用者懇談会 開催日：令和2年2月13日（木）

## 二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	図書館の設置目的を踏まえて策定された施設運営上の基本方針に基づき管理運営されており、全館共通の業務や行事も適切に行われている。サービスの質の向上や利用促進のための取り組みもなされている。	24/24
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績や配置状況、また、施設の開館状況は仕様書のとおり適切である。指定管理料も適正に執行されている。個人情報の取り扱いや情報システムのセキュリティ対策については徹底している。危機管理マニュアルを作成し研修を実施するとともに、災害発生時の訓練は関係機関と合同で適切に実施されている。	30/30
III 施設・設備の維持管理	建物及び設備は適切に管理されており、備品も適切に管理されている。環境へ配慮した取り組みがなされている。	17/17
IV サービスの質の向上	「若林図書館だより」や「上映会通信」などの広報誌を発行し、若林区内の市民センターやコミュニティセンター、児童館にも配布を行うなど、幅広い層へのアピールを行っている。本社の人材育成基本方針に基づく年間研修予定表を作成するとともに、テレビ会議システムで本社の研修にも参加できる体制を整えるなど、職員の人材育成に取り組んでいる。	27/27
V 施設固有の基準	子ども読書推進活動においては、のびすく若林や「新寺こみち市」など、積極的に図書館の外に出て出前おはなし会を実施しており、ビブリオバトル中学生大会などの定評ある事業を継続して行っているほか、独自の読み聞かせボランティア講座も実施し、新たな読書活動推進の担い手育成に貢献している。 また、東北学院大学と連携し、被災した新浜の歴史をテーマにした事業を実施するなど、震災の記憶の継承や震災文庫の利用促進を図った。農業園芸センターとの連携事業を実施し、分担収集分野である農業関連資料のPRにも努めている。	18/16

### 三 評価総括

《指定管理者（株式会社ヴィアックス）による自己評価》
<p>令和元年度は若林図書館の持つ特徴や地域特性を活かし「地域・市民に役立ち、共に成長を続ける図書館」の実現を目標に運営を行った。自主事業では、引き続き地域連携事業を中心に取り組み、利用促進を図った。中でも、「読み聞かせボランティアサークルほんわか」の新規ボランティア養成講座を実施し、活動機会を拡大するなど、市民協働を進め、新寺こみち市での「ヤギさんおはなしかい」やのびすく若林での「出前おはなし会」のほか各種おはなし会を積極的に行うなど、子どもへの読書推進活動に取り組んだ。また震災関連事業では、東北学院大学と連携し、仙台市東部沿岸部で地域に根付いた復興活動に取り組む団体をパネル展示で紹介しながら、ギャラリートークも実施し、仙台市図書館で進める『震災文庫』の利用促進を図る機会とした。併せて、区文化センターや区中央市民センター、せんだい農業園芸センターなどの近隣施設と連携した事業も継続的に行った。指定管理者の独自事業として、「情報リテラシー支援講座」、「中学生ビブリオバトル」、「文学散歩:再考!!真山青果を知る」など様々な年齢層に合わせた多様な事業を実施したことで、既存利用者の満足度を上げたほか、新たな利用者の掘り起こしにつなげることができた。ただし新型コロナウイルスの影響で実施できなかった事業もあった。職員研修では、コンプライアンス研修や個人情報保護研修、人権啓発研修など全従業員対象の研修のほか、テレビ会議システムを活用した専門業務研修を実施、加えて仙台市図書館、宮城県図書館主催の研修にも積極的に参加し、専門性の向上につなげた。施設管理面では、児童書架吹抜け照明の修繕工事や視聴覚室の音響設備改修工事を行い、館内設備を整備した。また、YAコーナーや新刊本の設置場所を工夫するなど、快適な読書環境を提供した。加えて、3年間の防火管理の実績が認められ防火対象物特例認定を受けることができた。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和元年度は、地域イベント「新寺こみち市」における「ヤギさんおはなしかい」の継続、のびすく若林でのおはなし会実施など、地域に向いて事業を行うとともに、館独自として新たにボランティア養成講座を実施し、ボランティアの活動機会の拡大を図るなど、市民協働で子どもの読書活動推進事業に取り組んだ。</p> <p>また、震災関連事業として、東北学院大学と連携し、被災した新浜の伝統を振り返り、生態系を見守る活動を紹介する展示を行い、地域の歴史や震災の記憶の継承に取り組んだ。農業園芸センターとの連携事業では、伝統野菜や地域の農業に着目した事業を実施するとともに、分担収集分野である農業関連資料のPRにも努めた。</p> <p>職員研修については、テレビ会議システムの活用により、専門分野への研修に職員を積極的に参加させたほか、館独自に防犯講座を実施し、不審者への対応や心構えを全職員で学ぶなど、充実した研修体制を整えている。さらには、YAコーナーや新刊本の設置場所の工夫に取り組み、快適な読書環境の提供に努めた。</p> <p>今後も引き続き、民間のノウハウを活かした事業実施とともに適正な施設運営を期待する。</p>	S

#### 四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局市民図書館

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市広瀬図書館
2	指定管理者	丸善雄松堂 株式会社
3	指定期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日
4	施設の利用状況	《利用者数》 令和元年度：124,099人団体〔個人：123,598人、団体・文庫：501団体〕（前年度比100.2%） 平成30年度：123,852人団体〔個人：123,314人、団体・文庫：538団体〕 平成29年度：111,176人団体〔個人：110,608人、団体・文庫：568団体〕
		《事業》 仙台市広瀬図書館の運営管理
5	収支の状況	《費用》 （ ）は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 54,757千円 （53,700千円） ・ その他市が負担した費用 8,880千円 （8,822千円）
		《収入》 ・ 使用料収入 0千円 （0千円）
		・ その他収入 26千円 （24千円）
		《実施状況》 利用者アンケート 実施期間：令和元年12月8日（日）～21日（土） 利用者懇談会 開催日：令和2年2月6日（木）
6	利用者の声	

## 二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野		所見	評価
I	総則	図書館の設置目的を踏まえて策定された、施設運営上の基本方針に基づき管理運営されている。全館共通の業務や行事も適切に行われており、サービスの質の向上や利用促進のための取り組みもなされている。	24/24
II	施設の運営管理体制	職員の勤務実績や配置状況、また、施設の開館状況は仕様書のとおり適切であり、指定管理料も適正に執行されている。個人情報の取り扱いや情報システムのセキュリティ対策についても徹底している。災害発生時の訓練も関係機関と合同で適切に実施されている。事故防止のチェックリストに基づき館内を巡視するとともに、事故や苦情等の処理報告書を榴岡図書館との間で相互に共有し、ヒヤリ・ハット集の充実を図っている。	30/30
III	施設・設備の維持管理	建物、設備及び備品は適切に管理されている。また、広瀬文化センター全体として組織するごみ減量委員会に参加し、ごみ減量に取り組むとともに、利用者を巻き込んだ取り組みとして不要になったエコバッグ等を必要とする人に受け渡すことができるカゴを館内に設置するなど、環境へ配慮した取り組みもなされている。	17/17
IV	サービスの質の向上	利用者特性に配慮した分かりやすい掲示物・広報物等の作成や丁寧な接遇によりサービスの向上に努めている。接遇研修を始め、必要な研修の機会も設けられており、スタッフミーティングで研修参加者による報告が行われている。催事案内を近隣の商業施設や児童館、保育所等に持参するなど積極的な広報に努め、潜在的な利用者への働きかけも行っている。	27/27
V	施設固有の基準	読書離れが著しいヤングアダルト世代に向けた読書活動推進の取り組みとして、選書アドバイザーとして学生を募り、ともに選書、展示、広報誌づくりを行うなど、積極的な取り組みを継続的に行うとともに、児童の朗読ワークショップや英語絵本の読み聞かせ等を行う「えいごdeおはなし会」を開催するなど、若年層向けの取り組みを積極的に行っている。また、仙台高等専門学校広瀬キャンパスと連携し、夏休みプログラミング工作会や英語多読教室を実施したほか、宮城総合支所保健福祉課と協力し、「認知症フレンドリー」や「自殺対策」に関する資料の展示および啓発パンフレットを配布するなど、外部機関との連携により、地域の特色を生かしながら魅力的な図書館事業を展開している。	18/18



### 三 評価総括

《指定管理者（丸善雄松堂 株式会社）による自己評価》
<p>令和元年度の図書館運営は、年度当初に策定した基本方針と図書館振興計画の施策に基づき、事業計画を着実に実施してきた。</p> <p>1. 基本業務は、図書館の基礎的機能を充実させるとした基本方針に基づき、窓口対応の動線整理やオペレーションの効率化に取り組んだ。このことの成果として、9:30開館に瑕疵なく対応できたほか、新型コロナウイルス感染症対策にも着実に取り組むことができた。また、宮城総合支所との協力による地域課題の解決を支援する資料展示・啓発コーナーの設置にも新たにに取り組むことができた。</p> <p>2. 自主事業は、併設施設や近隣施設との共催・連携事業に継続して取り組んだ。天文台と連携した児童向け天文教室では、12月の開催を意識して「日食」をテーマとするなど、特色ある事業の実施に努め、年間事業参加者数は延べ8,492人になった。</p> <p>3. 利用実績は、利用者数／日（延べ人数）で2.4人増、貸出冊数／日で84.9冊増、返却冊数／日で77.3冊増といずれも増加した。主たる要因としては、平成30年11月から貸出冊数の上限が10冊に変更されたことが考えられる。前年比で毎月利用が増加する結果となり、年間では貸出冊数、返却冊数とも前年比105%を超えた。</p> <p>4. 職員に対する教育研修は、指定管理者研修、仙台市図書館主催研修、外部研修を併用して実施した。研修報告書の作成と全体会議での報告を通じた研修内容の共有についても継続して実施した。</p> <p>5. 運営の評価は、自己評価や市民図書館による定例監査のほか、第三者評価として「利用者アンケート」を実施した。また、図書館利用者等の意見・評価を得ることを目的に「利用者懇談会」及び「ボランティア懇談会」を開催した。</p> <p>6. 施設管理は、「仙台市公共施設点検要綱」に基づく定期点検を適切に実施した。また、入居施設である広瀬文化センターとの緊密な連絡により効率的な施設管理を行うことができた。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和元年度は、宮城総合支所とのタイアップにより、悩みを抱える市民に寄り添う資料の展示や、妊娠期の親や乳幼児の親への読書支援を新たに行うなど、本市が目指す「地域・市民に役立ち、共に成長を続ける図書館」の実現に向けた取り組みを行った。</p> <p>中高生（ヤングアダルト世代）が読書に親しみやすくなるよう、選書アドバイザーを募集し、中高生による自薦・他薦の読みたい本の選書活動やブックリストづくりなどの活動支援を引き続き行った。さらに、令和元年度は、中高生を対象に本の紹介や本に関する会話を楽しむ読書会を初めて開催するなど支援の拡充を行った。また、英会話教室の外国人講師を招き、子ども向けイベントとして英語絵本の読み聞かせや英語による手遊びなどを行う「えいごdeおはなし会」を開催するなど、国際化社会における英会話教育のニーズを踏まえた特色あるイベントを開催した。</p> <p>また、引き続き関係機関や地域との連携事業、地元企業と連携した講演会等の自主事業もより一層の充実を図り、地域の特色を生かしながら魅力的な事業を実施し、多くの参加を得ている。仙台高等専門学校広瀬キャンパスとも様々な形で連携を深めており、特に夏休みプログラミング工作会は、小学校の授業で新たにプログラミング授業が導入されたことにより市民の関心が高く、参加者からも高評価が得られた。</p>	S

### 四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局市民図書館

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市榴岡図書館	
2	指定管理者	丸善雄松堂 株式会社	
3	指定期間	平成29年4月1日 ～ 令和4年3月31日	
4	施設の利用状況	《利用者数》 令和元年度：110,495人団体〔個人：110,296人, 団体・文庫：199団体〕（前年度比 102.1%） 平成30年度：108,175人団体〔個人：107,967人, 団体・文庫：208団体〕 平成29年度：89,403人団体〔個人：89,235人, 団体・文庫：168団体〕	
		《事業》 仙台市榴岡図書館の運営管理	
5	収支の状況	《費用》 （ ）は前年度決算額	
		・ 指定管理者に支払った費用	45,232千円 （44,410千円）
		・ その他市が負担した費用	12,349千円 （12,346千円）
		《収入》	
・ 使用料収入	0千円 （0千円）		
・ その他収入	35千円 （35千円）		
6	利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート 実施期間：令和元年12月8日（日）～21日（土） 利用者懇談会 開催日：令和2年2月14日（金）	

## 二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野		所見	評価
I	総則	図書館の設置目的を踏まえて策定された施設運営上の基本方針に基づき運営管理されており、全館共通の業務や行事は適切に行われている。サービスの質の向上や利用促進のための取り組みもなされている。	24/24
II	施設の運営管理体制	職員の勤務実績や配置状況、また、施設の開館状況は仕様書に相違なく適切である。指定管理料も適正に執行されている。個人情報の取扱や情報システムのセキュリティ対策についても徹底している。事故防止チェックリストを作成するとともに、広瀬図書館と事故事例を共有し、ヒヤリハット集として整備している。災害発生時の訓練も適切に実施されている。	30/30
III	施設・設備の維持管理	建物及び設備は適切に管理されており、毎日定時に館内を巡回し、事故・犯罪の未然防止に努めている。環境へ配慮した取り組みもなされており、備品も適切に管理されている。	17/17
IV	サービスの質の向上	利用者への丁寧な対応を基本姿勢として、サービスの向上に努めている。利用者アンケートや利用者懇談会から把握できた利用者ニーズについて、可能な限り対応を行っている。研修を受講しやすい環境を整え各種研修へ積極的に参加するとともに、参加者による研修成果を還元する報告も行われている。	27/27
V	施設固有の基準	読書離れが著しいヤングアダルト世代に向けた読書活動推進の取り組みとして、選書サポーターとして学生を募り、ともに選書・展示・広報誌づくりを行うなど、積極的な取り組みを継続的に行っている。また、仙台青葉学院短期大学で、図書館職員がカリキュラムの一つとして講習や図書館実習を行ったほか、他大学でもワークショップの開催や職場体験の受け入れなどを積極的に行っている。	18/16

### 三 評価総括

《指定管理者（丸善雄松堂株式会社）による自己評価》
<p>1. 令和元年度は指定管理者として「基本方針」と「仙台市図書館振興計画(第2次)」に基づき、地域の教育機関、団体等との連携を促進し、利用者サービスの向上を図るとともに、地域に根ざし親しまれる図書館を目指して業務と自主事業を進めた。資料の配架においても、限られたスペースの中で蔵書数を増やすために文庫本や新書サイズの本を意識的に選定した。また、今年度は運営母体である丸善雄松堂株式会社内にて開催される「KnowledgeNavigation賞」において、大学との連携(司書を目指す学生の職場体験やゼミ生の展示実習等)を評価され「コミュニケーション賞」を受賞した(2015年以來2回目)。</p> <p>2. 自主事業は、計53回(延べ回数)実施した。今年度はアブロードインターナショナルスクールの図書館見学(おはなし会含む)や定例のおはなし会へのタイ人の親子の参加等、地域の国際化が感じられた。またテーマ展示として行った「いろいろなかぞく」が好評のため、一般書と児童書のコラボ展示としてSDGsに関する展示を長期的に実施した。</p> <p>3. 利用実績は、利用者数/日(延べ人数)が9.6人増、貸出冊数/日が33.6冊増、返却冊数/日が25.1冊増、予約冊数/日が12.1冊増となった。当館はインターネット予約からの受取りも多く、自主事業でのPR等含めて当館の認知度が上がり、比例して利用も増えたのではないかと考える。さらに積極的にTwitterによる広報を活用した。</p> <p>4. 教育研修は、図書館総合展や文部科学省の図書館地区別研修にも積極的に参加し、図書館ニーズの把握にも努めた。</p> <p>5. 施設管理は、開架書架の配置換えや見出しの差込みを適宜行う等、より利用者が資料を探しやすいように整えた。また「仙台市公共施設点検要綱」に則して定期的な点検を行うとともに、女子トイレのレバーへの交換等といった施設の維持管理を行った。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>図書館事業では、引き続き「みやぎの・まつり」や「エキヒガシ七夕交流会」等地域のイベントに積極的に参加し地域団体やボランティアとの連携を深めたほか、ママ・ココ・フェスティバルでは協力団体として手遊びや大型絵本の読み聞かせを行うなど、幅広い層に図書館のPRを行った。</p> <p>また、読書離れが著しい中高生(ヤングアダルト世代)への読書推進を目的に、中高生の選書サポーターを募集し、中高生サポーターによる図書館の選書・書架の装飾・ブックリスト作成への支援活動を行った。また、仙台青葉学院短期大学や聖和短期大学、尚絅学院大学等の複数の大学と、講師派遣や職場体験受入などで連携を図り、図書館を担う専門職育成に貢献していることは高く評価できる。</p> <p>図書館内においては、文庫本等の意識的な配架による蔵書数増加の取り組みや館内の配置の工夫、SDGsをテーマにした展示の実施など、限られたスペースを最大限に生かして魅力的で快適な図書館づくりに努めた。今後も引き続き、民間のノウハウを活かした事業実施による図書館利用促進への取り組みを期待する。</p>	S

### 四 その他特記事項

(上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する)

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局市民図書館